PandocでMarkdownから業務文書.docxを作る

引き継ぎのためにはWordで残さざるを得ない

日下部幽考

2025-05-21

## 概要

このファイル群は、業務文書をMarkdownで執筆し、Pandocを通してMicrosoft Word形式にするためのものである。Markdownはテキストエディタによってテキストファイルとして書けるため、Microsoft Wordの将来の価格・存続にかかわらず保存できる。

次のような読者を想定する。

* Pandocの導入が済んでいる。
* Markdownの記法を知っている。

## 背景

私は教員として働いている。職場では、業務にかかる文書はMicrosoft Wordで作ることが暗黙の了解となっている。しかし、Microsoft Wordは重さ・お節介・保守性などの面で気になる点がある。また、もしも社会情勢上または職場環境上の理由からMicrosoft Wordが使えなくなったとき、失われるものは計り知れない。

そこで、Microsoft Wordは出力結果にとどめ、テキストデータとして文書を作るための環境を整えたい。

## 解決

Readme.docxはReadme.mdからMake\_Docx\_Document.batで（pandocを使って）処理したものである。

### 共通の仕様

* BIZ UDフォントを既定としている。
* 強調は日本語らしい設定にできていない。出力したファイルをWordで開くと、スタイルの欄に\_\_strongという名のスタイルが用意されている。これを使ってもらいたい。注意：　手動で適用した。
* 箇条書きは適切に設定できていない（compactスタイルを書き換えることで実現しているため）。本来のcompactスタイル用途としては、代わりに\_originalcompactスタイルを使うことができる。また、箇条書きのネストもうまく働かない。第２階層以降は、「インデントを増やす」により手動で調整する。
* 日本語と英語・数字の間は自動調整しない。ベタ組の仕上がりを優先している。

### @document.md + Template\_Document.docx

内部向け資料を書くためのテンプレートである。

* titleに文書タイトルを書く。
* subtitleも使える。空欄にしておくと省かれる。
* dateに日付を書く。形式は何でもよい。
* authorに作成者名を書く。
* １番目の見出しはタイトルと同じ体裁を出力する。基本的には、２番目の見出しから使うことを想定している。これは、strict.mdと原稿を互換にするための措置である。

### @strict.md + Template\_Strict.docx

外部向け資料を書くためのテンプレートである。

* title, date, authorは適切な位置に配置できないため、これらは使わない。
* 日付・宛名・発行者名は地の文となっている。生成されたファイルをWordで開くと、スタイルの欄に準備されているため、これを用いる。@Authorが発行者名、@Dateが日付、@Toが宛名である。

### Make\_Docx\_Document.bat

@document.mdに従って書かれたNAME.mdファイルをドラッグアンドドロップすると、同じフォルダにNAME.docxが生成される。

Template\_Document.docxと同じフォルダに置く。使いやすい（ドラッグ＆ドロップが楽な）場所にショートカットを置くことを想定している。

### Make\_Docx\_Strict.bat

@strict.mdに従って書かれたNAME.mdファイルをドラッグアンドドロップすると、同じフォルダにNAME.docxが生成される。

Template\_Strict.docxと同じフォルダに置く。使いやすい（ドラッグ＆ドロップが楽な）場所にショートカットを置くことを想定している。

## 補足

Markdownからきれいな文書を出力することが目的であれば、LuaLaTeXを経由してPDFを出力することをすすめたい。このファイル群は、職場内における共有のためにWordファイルにせねばならないことを念頭に作られている。

* 最新の情報：　注意：両端揃えは手動で解除した。  
  <https://www.metaphysica.info/2022/md-generated-docx/>
* 連絡先：　注意：両端揃えは手動で解除した。  
  <https://twitter.com/metaphysicainfo>
* MIT license
* Copyright (c) 2022-2025 Yukoh Kusakabe

改変は一切自由である。

Readme\_20241220.pdf の見た目のほうが好みであれば，Template\_Document\_20241220.docx を Template\_Document.docx にリネームすれば適用されるテンプレートを切り替えられる。

## 参考

* [日本語Markdownユーザー会](https://www.markdown.jp/)
* [日本Pandocユーザ会](https://pandoc-doc-ja.readthedocs.io/)
* [Pandoc.org](https://pandoc.org/)

## 改訂

* 改訂：　2025-05-21
  + 見出しの体裁を2024-07-29版のものへ戻した。
  + \_\_em の名前を \_\_strong に変えた（HTML と統一するため）。
  + マニュアルのＵＲＬを変えた。
* 改訂：　2024-12-20
  + 本文・compact を両端揃えとした。
* 改訂：　2024-11-02
  + 用紙サイズをB5判からA4判へ変更。それに伴いフォントサイズを変更。B5印刷は、プリンタの出力用紙機能またはPDFを経由することを想定している。
  + ヘッダ・見出しをはじめとするプロポーショナルフォントを等幅フォントへ変えた。
  + 見出しの体裁を変えた。
  + Document (Modern) において、AuthorとDateの位置を変えた。
  + Document (Modern) において、偶数ページと奇数ページの体裁を揃えた。
* 公開：　2022-07-29
  + 初回公開版である。

注意：　この箇条書き第２階層は、「インデントを増やす」により手動で調整した。